

いじめのない世の中

七浦小学校 3年 北村 百花

わたしには、わすれられない出来事があります。

それは、私が三年生になって帰りのじゅんぴをしているとき友だちがめいれいされているのを見ました。わたしは、だいじょうぶかなと思いましたが、わたしは、ほかの人がめいれいしているのをとめてくれると思い、だまって見ていました。けれど、まわりの人たちは、帰りのじゅんぴにむちゅうになってだれも気づいてくれなかったです。その子は、かなしい顔をして、めいれいにしたがつていました。わたしは、帰りのじゅんぴをしたのでそこまでしか見ていません。これがわたしのわすれられない出来事です。

このことがわすれられないのは、自分がずっとだまって見ているだけで、とめることができなかったからです。あのときちゃんと、めいれいしちゃダメだよと言うべきだったと思い、いまでもこうかいることがあります。帰りのじゅんぴをしているときにも、あのあとどうなったか考えていました。あのこは、なにがげんいんなのかわからないけど、あんなにかなしい顔をしてたのに、めいれいをつづけるなんて、どうしてあんなにひどいことをするんだろうと思いました。わたしも三年生になってからいやな思いをしました。友だちが、帰りのじゅんぴをしているとき、

「それとって」

と言われました。その後も二、三回いわれました。あのときすごくかなしくて、めいれいされるがわの気持ちがよくわかりました。でも、あの子は、わたしより、もっともつつらかったと思います。いじめにあって苦しんでいる人がこの世からいなくなればいいです。

わたしは、いじめをなくす方ほうを考えました。それは、あいての気持ちを考えること、いじめをゆるさない心をもつこと、いやなことをしないことだと思います。いじめは小さなことから始まります。みんながほかの人にやさしくして、いやな気持ちにさせることを言わなければ、いじめは始まらないと思います。いじめのない世の中になるように一人一人が気をつけることが大切だと思います。